

事務局から

▼「教育情報」100号記念に「新潟日報」から取材を受け、3月17日付けの朝刊に掲載されました。早速、市民と「日報」の販売部から、どこの書店で購読できるかとの問い合わせがありました。素早い反響に驚き、更に宣伝を強めたいと思います。

▼昨年12月に、当研究所が提起し、開催をはじめた隔年の会員制研究所の全国交流会が青森で、1月には、長野で民主教育研究所主催の全国教育研究交流集会在それぞれ開かれ所員が参加しました（研究所通信No.116参照）。いずれの交流会も、これからの教育研究の指針を与えてくれます。

▲次号102号は、「小中一貫教育・小中一貫教育学校」を特集します。東京・品川区で端を発した「小中一貫教育」が、全国で1542校に波及しています。三条市や湯沢町でもその答申が出されました。子ども達の発達にふさわしい制度改革か、問題点は何かを考えたいと思います。（内山）

編集後記

▼山本論文では最近の学校統廃合の背景に財界の産業グローバル化に対応して、公教育もグローバル国家に従属、再編する新自由主義的教育改革に沿うものと分析しています。また過疎化による人口減が学校統廃合を引き起こし、さらに地域の産業、とりわけ農業を衰退させる負のスパイラルをまねいているのではないかと指摘しています。今後の取り組みにとって重要な視点だと思います。

▼「切磋琢磨」とか「社会性を育む」として町の中心部への学校統廃合が急激にすすめられていますが、地域のもつ教育インフラをもつと重視すべきです。

昨年秋季に佐渡の羽茂や赤泊などの小さな学校を訪問したりレポートを掲載しました。ところが小誌が発行される頃には残念ながら、いくつの学校は廃校になっています。

▼北方文化博物館の伊藤館長さんに二時間余りにわたってお話を伺うことが出来ました。ご自身の八十年余の越し方を振り返られて、日本の伝統文化を守り育てることの

重要さを語られました。感謝申し上げます。▼今回、節目の101号から表紙のデザインを少々変えました。これまでの表紙をデザインされた那須高明さん、写真撮影をされた荒井肇さんに感謝申し上げます。新しい表紙にスタッフ一同、新たな決意をこめたつもりです。

▼本田賢文さんの「タスマニアの高校から」と菊崎威さんの「南京木屑」は今回で終わります。執筆のお二人に感謝します。（大滝）

にいがたの教育情報 No. 101

2010年3月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭 三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。